ブラキムラとめぐる！仙台城下町ボヤージュ【2023年6月6日放送分・土橋通／十二軒丁】

毎月第1火曜日に放送しています。歴史家で街歩きの達人・ブラキムラこと木村浩二さんと、旧城下町に88本ある石柱＝辻標から歴史の痕跡を探る旅です。街歩きのお供には、仙台市役所1階の市政情報センターなどで販売中の冊子、その名もズバリ「辻標」が便利です。88本ある辻標の場所や周辺の歴史が、写真とともに分かりやすく解説されています。

- 伊達政宗の時代に整備された「四ツ谷用水」。青葉区郷六で広瀬川から取水し、同区福沢町で梅田川に吐水するまでのおよそ8kmの流れを、歴史家の木村浩二さんと追いかけています。
- 今回は、本流を離れて「第1支流」をご紹介。主に3つある支流のうち最初に分岐する支流は、八幡2丁目から土橋通を南に下って行きます。大学病院前を西に…大崎八幡宮方面に500mほど進むと、片側1車線ずつの南北の通りと交差する、これが土橋通です。八幡小学校の正門側にだけ歩道が付いていて、下を堀が通っている暗渠である事が分かります。ただし、本流が現役の工業用水なのに対し、3つの支流はいずれもすでに水は流れていません。

- 周辺ではひときわ背の高いタワーマンションの足元に、今月の辻標「土橋通／十二軒丁」がひっそり立っています。「土橋通」は、城下の難所“へくり沢”に底樋を伏せて土手状の橋＝土橋をかけた事から、土橋に通じる通りという意味で呼んだものです。この辺りはかつて深い渓谷で、東西の往来に不便をきたしていました。江戸時代前期の寛永年間に工事が始まり、中島丁や角五郎丁など近隣の侍屋敷が人馬を出しあい、13年かけて完成したと伝わっています。へくり沢はその後、往来を便利にするため時代ごとに何度も土木工事が行なわれました。最後の埋立ては、終戦直後。仙台空襲などで出た戦災ガレキを投入したと、記録に残っています。

- 四ッ谷用水の第1支流は辻標の辺りで左に曲がり、北三番丁を東進します。その後、ジグザグに現在の仙台市内中心部を南東方向に流れ、最終的に本流と同じく梅田川に吐水していました。

- 辻標のもう片面「十二軒丁」は、丁の字でチョウと読みますから、このコーナーを聞いて下さっている方は、侍の街だと分かりますね。八幡町の入口辺りで、尚絅女学院前の坂を上がった所にあった町です。侍屋敷が十二軒並んでいた事から、このように呼ばれました。

〈文・佐々木淳吾〉